

平成 28 年度 第 3 回能勢町子ども・子育て会議
～議事録～

日 時：平成 29 年 2 月 22 日(水) 10:00～12: 00

会 場：能勢町保健福祉センター 2 階 多目的室

出席者：小島会長・樺山副会長・中橋委員・宇佐美委員・畠委員・三浦委員・中谷委員・
市村委員・萱野委員・後藤委員・齋藤委員・伊木委員

【計 12 名】

傍聴者：2 名

関係機関：大阪府池田子ども家庭センター 田村総括主査

事務局：健康福祉部 渡瀬健康福祉部長・古畑福祉課長・西村保育所長
大植福祉係長・疋田福祉係主事・藤原社会福祉士
教育委員会 瀬川教育次長・辻学校教育課長

次 第：1. 開会

司会：古畑課長

2. 議事

議長：小島会長

- (1) 子どもの生活に関する実態調査等について
- (2) 子ども・子育て支援事業計画の変更について
- (3) その他

3. 閉会

司会	<p>皆さま、おはようございます。本日はお忙しい中、ご出席賜り、ありがとうございます。</p> <p>定刻になりましたので、只今より平成 28 年度第 3 回能勢町子ども・子育て会議を開催させていただきます。</p> <p>なお本日は、藤本委員、八木委員、太田委員より欠席のご連絡をいただいておりますので報告いたします。</p> <p>それでは開会にあたり、小島会長より一言ご挨拶をお願いします。</p>
会長	<p>大変お忙しい中、委員の皆様方には第 3 回能勢町子ども・子育て会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>本日は第 3 回となっておりますので、本年度の最後の会議になると思われま。子どもの生活に関する実態調査からみえるものとして検討を続けておりますが、子どもたちが能勢に生まれて、能勢で育ててよかった、そして周りの人たちが能勢の子どもたちを守ることができてよかった、そんな環境作りをこの会議では担っていると思います。</p> <p>本日は、アンケートを元に説明されますが、委員の方々はそれぞれの立場で出席されています。だから、それぞれの立場でできることはしなければならぬと思います。例えば、家庭でできることは家庭で、学校でできることは学校で、地域でできることは地域で、行政でできることは行政でという点を集めて、横に広げて線になり、縦に広げたり深く掘</p>

	<p>り下げたりして一つでも解決できるように、それが会議の大きな目的であると思います。</p> <p>只今から第3回能勢町子ども・子育て会議を始めさせていただきますが、いろいろと忌憚のないご意見をお聞かせいただいで、充実した会議となりますようよろしくお願いいたします。</p>
司会	<p>小島会長、ありがとうございました。</p> <p>それでは、案件に入る前に資料の確認をさせて頂きたいと思います。 (資料確認)</p> <p>それでは、会議の進行につきましては、能勢町子ども・子育て会議設置条例第6条の規定により、会長にお願いいたします。</p> <p>では、小島会長よろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>それでは、案件①子どもの生活に関する実態調査等について事務局より説明をよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>(子ども子育て会議委員からの意見の報告)</p> <p>(能勢町子どもの生活に関する実態調査に係る今後のスケジュールについての説明)</p> <p>(能勢町子どもの生活に関する実態調査 クロス集計結果の説明)</p> <p>(能勢町子どもの生活に関する実態調査概要と現行施策及び課題、取り組みの方向性について説明)</p>
会長	<p>取組みにつきましては、後ほどのグループ討議でお互いの立場に立ってご意見をお願いしたいと思いますので、全体的に把握しておきたいことなど、ご意見がありましたらお願いします。</p> <p>ご意見がないようですので、ただ今からグループ討議を行います。</p> <p>事務局からどのように分かれて話をさせていただくか等説明をお願いします。</p>
事務局	<p>参考資料①の通りグループ分けいたしました。各グループにファシリテーターとして事務局が1人入って進行します。約20分間グループ討議をしていただいで、発表はファシリテーターが行います。</p> <p>それではよろしくお願いいたします。</p> <p>(約20分間 グループ討議)</p>
会長	<p>お時間となりました。</p> <p>それではAグループから発表をお願いします。</p>
事務局 (ファシリテーター)	<p>平成29年度に実施していく学校プラットフォーム化の中で学校を拠点としていくと、東地区における事業展開という点で問題があるのではないか。能勢の地域特性を生かした事業の展開も必要ではないか。</p> <p>プラットフォーム化に取り組むとしても人材が不足するのではないか。事業を展開しても十分な人材が関わっていけるのか不安である。</p> <p>学校は一つであるが、各地域がそれぞれの集まりからつながりを作り、それが一つの学校としてなっていくのではないか。例えば、給食の提供にしても旧学校区で地域の方が携わっていけば、知っている顔ということもあり、地域の子どもたちも通いやすいのではないか。能勢町一</p>

	<p>つではなくて、地域単位からの活動から能勢町が一つになっていけばいいのではないかという意見が出ております。</p> <p>みどり丘幼稚園の卒園生から学校の話を見ると、これまでは、学校が楽しいとか希望があるといった話が多かったが、今年、卒園生の中には不安を抱えている児童がいる。理由としては、少人数の小学校から再編されたことや、学校まで通学バスを利用していることが原因であると思われる。そういった子どもたちをサポートする必要があるのではないかという意見がありました。</p>
会長	<p>Aグループから発表について、ご質問がありましたらお願いします。ご質問がないようですので、次はBグループの発表をお願いします。</p>
事務局 (ファシリテーター)	<p>アンケートの分析結果の中で、母数が少ない中でまとめの部分は言い切れないのではないかと。例えば、朝食を食べていないとか、ご飯を一緒に食べていない子どもたちについて、そのデータだけで結果に結びつけるのはどうかというところから、一度深く検証してみないといけないのではないかと意見がありました。ごはんを食べていないというのはどうして食べていないのか、例えば用意がされていないのか、または一緒に食べる機会がないのか、用意がされているが一緒に食べる機会がないのか、深く見た時にどういった支援が必要なのかといった意見が出ました。</p> <p>今回のアンケート結果については、大阪府内 13 市町の結果が出てみないとわからないといったような意見も出ました。</p> <p>支援の必要な子どもに対して、学校がどのような支援ができるのかといったような意見もありました。校長先生からは子どもたちの生活の実態把握には努めているが直接的には聞けないので、会話をしながら子どもたちの生活の実態の把握に努めているといった意見がありました。また、孤立している子どもたちに対して働きかけをしているのかという意見がありましたが、それについては、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーを配置、能勢町独自で配置しているスクールサポーターや先生方の連携、ケース会議等含めて常に子どもたちの支援については携わっているということでした。</p> <p>能勢町は小さなことに手が届く、みんな顔見知りであり、子どもたちの支援について、能勢町ならではのことを今後も続けていくべきであるし、これまでやっていること、これからの施策でやろうとしていくことをうまくつなげていって能勢町らしさをやっていけたらと思っています。</p> <p>また、地域性のことですが、学校は一つになったが、旧学校区の地域で様々な取り組みがなされているところから、地域の方々が子どもをみているという文化がある。そこは継続してやらなければならないが、その部分を大事にしながらも点の部分に線にしていく、短期的ではなく継続していくということから子ども・子育て会議での意見をどれだけ施策に反映させていくかということのも大事になってくるかと思えます。</p>

会長	Bグループから発表について、ご質問がありましたらお願いします。
委員	<p>資料 1 について、なるほどと思ったところは、子どもの資源という言葉である。資源を発掘するということに対して、子どもに対する思いを感じ、そういうところに着眼されたというところになるほどと感じた。</p> <p>初めは、資料 1 に対して内容的にもよく分からなかったが、Bグループから発表を聞いて、今回のことで小さなことだけ地域の方は助けられたのだなと感じました。</p> <p>Aグループ、Bグループそれぞれ発表されたなかで、それぞれの考えを実践し、広げていく時に私たちは黙って指をくわえるのではなく、何か後押しできるのではないかと感じているところである。</p>
会長	ありがとうございました。他にございませんか。
委員	グループ討議の時間が短いと思いますので、次回からはもう少し長くとっていただきたい。
会長	<p>今回初めての試みであった。グループ討議を行えばいろんな意見が出るのではないかということで、事務局の方で設定をしていただきました。</p> <p>2つのグループに分かれて話し合いをすることで、また各委員が責任を持ち、様々な意見がでました。グループ討議で行ったことをプラスにとらえて、今回出た意見をどのように参考にしていくかは事務局の方で考えていただいて、ご検討していただければと思います。</p> <p>そのあたりは、また事務局よろしく願いいたします。</p> <p>他にご意見はございませんか。</p>
会長	<p>ご意見がないようです。</p> <p>今回のグループ討議で出た内容としては、地域性の大切さ、あるいは、能勢町らしさであったと思います。個人、地域で隠れてしまっている問題など、そういったものの発掘をしていかなければならない。それは、能勢町独自の取組の中で、すばらしいものは生かしていこう、新しいものは作りだしていこうという意見であったと思います。そういったことから、今回の意見を計画に枝葉をつけて生かし、委員のみなさんと共に試行錯誤して、能勢町で育て、また育てられて本当によかったと思える試みに結びつけることができたらと思います。それには委員のみなさんのお力が必要ですので、これからの会議でもつなげていきたいと思えます。</p> <p>それでは、以上で発表の場としては終了いたします。</p>
事務局	<p>様々なご意見ありがとうございました。今回の意見では、すばらしいものは生かしていこう、新しいものは作りだしていこうという考え方、どちらのグループにもご意見がありましたが、学校は一つになったが、旧校区の地域で様々な取り組みがなされているといったところから、そういった取り組みは残しつつ、それを一つにまとめていくという視点は必要ではないかと感じているところでもあります。</p> <p>子どもの居場所づくりについても平成29年度につきましては、パイ</p>

	<p>ロツト的に実施をし、検証をしながら、地域に広げていくということも考えられます。</p> <p>また、初めにお話ししておけばよかったのですが、アンケートの分析結果の中で、母数が少ない中で結果としてまとめるのは難しいのではないかと、といった意見がございました。この件につきましても、事務局としても懸念をいたしまして、大阪府立大学に相談いたしました。大阪府や、能勢町以外の市では、小学5年生、中学2年生の結果から、ある程度傾向が出てくるが、能勢町ではそうするとあまりにも母数が少ない。そういったことから、全体をまとめる時は能勢町につきましては、小学4～6年生、中学1～3年生のアンケート結果を用いながら、比較、分析を進めていくという方向性が示されております。</p> <p>ですので、3月末に結果が出た後、平成29年度の会議でご報告させていただきたいと思っております。ただ、この子ども・子育て会議は子どもの生活に関する実態調査だけではなく、様々な案件がありますので、事務局としては、調査結果について報告する会というものを別で設けていきたいと考えています。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、案件②子ども・子育て支援事業計画の変更について事務局より説明をよろしく申し上げます。</p>
事務局	<p>(能勢町子ども・子育て支援事業計画の変更についての説明)</p> <p>(能勢町子ども・子育て支援事業計画変更に係るスケジュールについての説明)</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、ご意見がありましたらお願いします。</p>
委員	<p>資料5⑬の利用者支援事業というものを実施していく中で、ぜひ保護者に広めていただいて、たくさんの方が利用されるような体制を作っていたらと思います。設置したけどみんな知らないといった状況にならないようにしていただきたいと思っています。</p> <p>また、今回のアンケートの単純集計結果で、誰にも相談する人がいない、という意見が気になったので、そういった人にもまた関わっていただけたらと思います。</p>
会長	<p>先程の意見にも出ましたが、知らない方々に対して、各委員におきましても、お伝えしていただけたらと思います。</p> <p>アンケート結果につきましては、また結果を基に考えていけたらと思います。</p> <p>他にご意見はございませんでしょうか。</p>
会長	<p>それでは、案件③その他について事務局より説明をよろしく申し上げます。</p>
事務局	<p>(能勢町子ども・子育て会議設置条例改正案についての説明)</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、ご意見がありましたらお願いします。</p>

会長	ご意見がないようですので、それでは、この会議全体としてご意見がありましたらお願いします。
委員	一点お願いがあります。アンケートの中の子どもの教育に関することについて、困窮世帯ほど授業時間以外の勉強時間について「まったくしない」の傾向が強まるといった結果が出ているが、実態がどうなのか知りたい。本当に困窮世帯ほど学力が低いのか。学力テスト等行っていると思うので、そのあたり次回教えていただきたい。
事務局	今回のアンケート結果と学力テストの結果は結びつけたものではないので、資料としてお出しすることができません。勉強時間とテストの結果と直接結びつけるものはないが、学校関係の方々も委員として参加していただいているので、結果を踏まえて対応していただきたいと思っています。
会長	他にご意見ございませんでしょうか。
委員	参考資料6の家庭教育支援チーム「とらいあんぐる」の取組についてです。「能勢町子ども関係機関連絡協議会」というのはわかりづらいので教えていただきたい。資料4の「要保護児童対策地域協議会」と同じものを能勢町では「能勢町子ども関係機関連絡協議会」と言っているのか。
事務局	「要保護児童対策地域協議会」と同じものを能勢町では「能勢町子ども関係機関連絡協議会」としてしますので、同じものであるとご理解していただきたい。 参考資料6の家庭教育支援チーム「とらいあんぐる」の取組についての話がありましたので、参考資料6につきましてご説明いたします。
事務局	(平成28年度能勢町子ども関係機関連絡協議会研修会についての説明)
会長	ありがとうございました。他にご意見ございませんでしょうか。
事務局	先にご報告できればよかったのであるが、2月に放送されたNHKスペシャルの前半部分で大阪府の子どもの実態調査について取り上げられていました。その中で相対的貧困世帯については、いろいろな理由で学習の機会が失われており、社会や様々なつながりから孤立していることから、将来において、様々なことにチャレンジする機会が失われているという説明されていまして、ご報告いたします。
会長	ありがとうございました。 それでは、最後に事務局の方から何かありますか。
事務局	平成28年度につきましては今回で最後になります。 平成29年度につきましては、先ほどご説明いたしました、調査結果について報告する会というものを別で設けていきたいと考えていますが、子ども・子育て会議より先にするのか、同時期に行うか等は改めて早い段階でご報告したいと考えています。
会長	ありがとうございました。 それでは、最後に副会長からまとめとごあいさつをお願いします。

副会長	<p>今回、グループ討議を行った中で、能勢町はソーシャルキャピタルという地域をよくしていこうとか、互いを信頼し合ってネットワークを構築していくという力が強く非常にすばらしいと感じているところです。自分は、健康、医療のことを研究しているが、経済的な困窮というのは病気にも関連している。心臓病や脳卒中にも影響があると言われていいます。経済的な困窮なので、医療機関を利用できないとか、薬を飲まない、サービスを受けないというのがあります。その背景として医療の知識が少ないとか生活習慣がよくない等から結果的に悪循環になる。</p> <p>ただ、ソーシャルサポートがしっかりしていれば緩和されるとされています。今回のアンケートの結果からも、貧困層には悪い結果が見受けられますが、いろんな資源に支えられて取り組まれているという印象を受けました。グループ討議の発表と同意見であるが、やはり能勢町には様々なすばらしい資源がある中でその資源を生かしていき、それが結果的に新しいものを作りあげられたらと思いました。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>グループ討議の意見をどのように反映していくのかといったご意見もございましたので、事務局としても是非つなげていけるようにしていきたいと思っております。平成28年度は今回の会議が最後になりますが、平成29年度以降もどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日はどうもありがとうございました。</p>